

4日間で101ものエントリー 切りくず写真で盛り上がる

「イケメン切粉選手権」——。7月中旬、短文投稿サイトのツイッター上で突如、この選手権が開かれた。事前の告知が一切なかったにもかかわらず、多くの部品加工業者や工作機械メーカーが参加した。開始日からわずか4日間で101もの「イケメン(格好いい)」切りくずの写真がエントリーされ、今夏の部品加工業界を大いに盛り上げた。この選手権を開催した「しぶちょー(@sibucho_labo)」さん取材した。

実は格好いい?

「#イケメン切粉選手権」——。「しぶちょー」のハンドルネームで活動する機械設計者が7月15日、このハッシュタグと共に切りくずの写真をツイッターに投稿した。ハッシュタグとは半角シャープの記号(#)を指し、その後に続くキーワードを検索する目印として機能する。

しぶちょーさんの投稿を見た多くの金属加工会社や工作機械メーカーはこぞって、このハッシュタグを付け、切りくずの写真をツイッターに投稿した。力強い螺旋形状を描いたSUS316Lの切りく

ずや、花の装飾のような美しい形状の淡いブルーのエンジニアリングプラスチックの切りくずなど、開始日からわずか4日間で101もの切りくずの写真がエントリーされ、大いに盛り上がった。

エントリーされた切りくずはどれも形が格好よく、イケメンの名に恥じないものだった。切りくずの形や色に現れる、素材の特性や刃物の特性も「見る人が見れば分かる」し、金属加工に詳しくない人が見ても面白い。「切りくずは、実は格好いい」と切削加工に携わる多くの人が潜在的に感じていたのだろう。そうでなければ、あの盛り上がりは説明がつかない。

原点は「人の役に立つ」

しぶちょーさんは「新型コロナウイルス禍に苦しみ町工場を元気にしたかったのと、工作機械の一般知名度を高めたかった。これら2つの課題を漠然と考えながら、何気なく切りくずを見た時に『格好いいな』と感じたのがきっかけ」と振り返る。

双方向でコミュニケーションを図れるツイッターの特性を生かし、



選手権のきっかけになった「格好いい」切りくずの写真(提供)

多くの人が参加できるよう「選手権」との用語を組み込んだ。また、大会の盛り上げに一役買おうと、しぶちょーさんは全ての投稿にコメントを返した。想像以上の反響があり「工作機械や切削加工とは違う業界の方にも興味を持ってもらえた」と手応えを語る。

しぶちょーさんは今年3月にツイッターと個人ブログ「しぶちょー技術研究所」(sibucho-laboratory.com)を始め、機械設計の情報や工作機械関連の情報を発信している。今回の選手権も含め、しぶちょーさんの活動の原点は「人の役に立ちたい」との思い。中学2年の時に読んだ、ホンダ創業者の本田宗一郎の書籍がきっかけだった。「今後もいろいろな人を巻き込み、人の役に立つ情報を発信したい」と話す。

(桑崎厚史)



しぶちょーさんのツイッターのアイコン(提供)